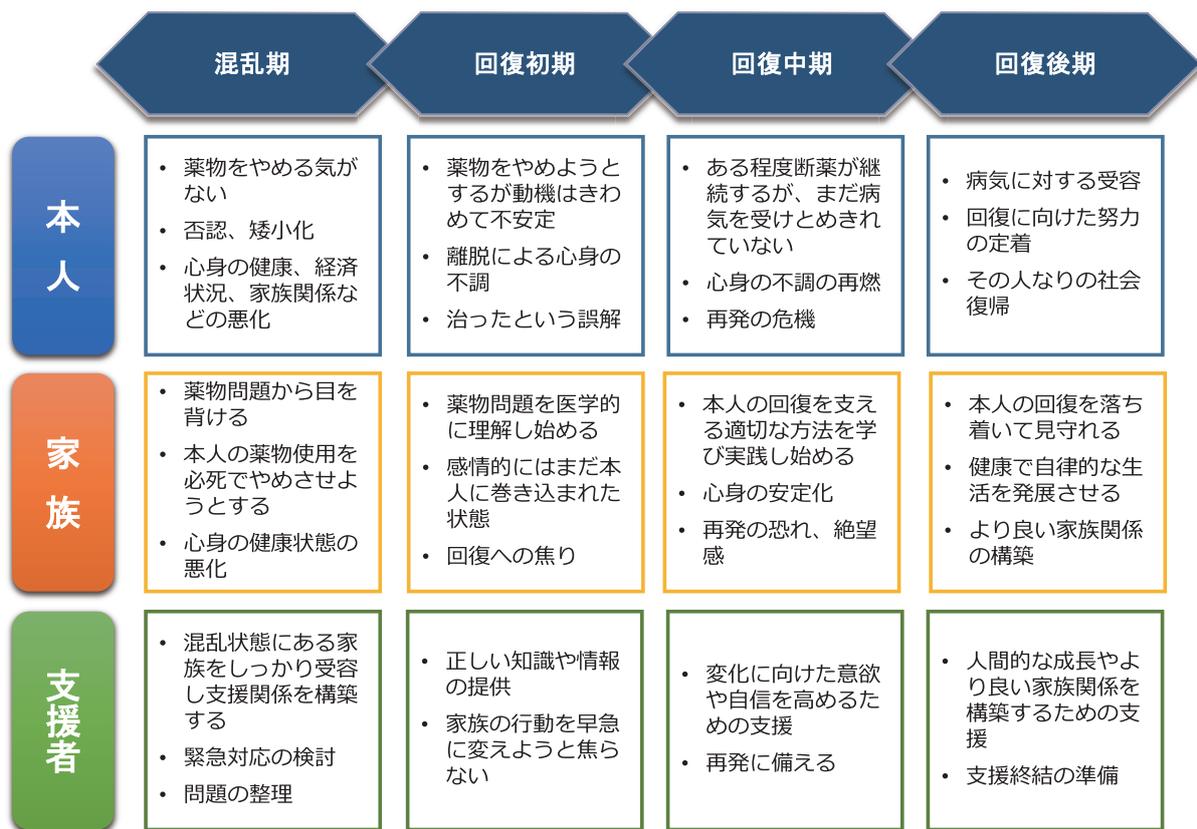


3. 回復のロードマップと支援者の役割

本人の回復にも、家族の回復にもそれぞれの段階があります。どの段階にどれくらい留まるかは個人差が大きく、いったん次の段階に移っても戻ったり、繰り返したりすることも少なくありません。また、本人の回復と家族の回復が必ずしも同じ早さで進むわけでもありません。

支援者自身も本人や家族の段階によって、不安になったり心が揺さぶられます。そのような中でも、家族や本人の大まかな回復の道筋を把握し、今どのあたりにいるのか見当をつけたうえで関わるができることとよいでしょう。どの段階にあっても、できる支援はあります。変化を焦りすぎず、今最も必要な支援を着実に提供することが、次のステップにつながります。

図2 回復のロードマップと支援者の役割



4. このツールの使い方

このツールは、薬物依存症者をもつ家族の面接相談を円滑に行うためのものです。「依存症の家族相談はあまり経験がない…」 「依存症の家族相談に自信が持てない…」 という方にはぜひご活用いただければと思います。

支援者が効果的に面接を行うためには、基本的な相談援助技術が必要となります。初回面接を行う前には、必ず「支援者に求められる基本的態度とスキル」をよく読み、しっかりと理解するようにしましょう。最初から完全に使いこなすのは難しいと思いますので、面接の後にも読み返し、自らの面接を振り返るなどしながら、少しずつ慣れていくとよいでしょう。

ツールは、「薬物依存症者をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」（以下、家族心理教育プログラムと記す）と連動する形で作成されています。プログラムは、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部のWebサイト*からダウンロードすることができます。

相談内容によっては「家族心理教育プログラム」と関連しないこともあると思いますので、無理に連動させる必要はありません。

巻末付録には「回復のイメージ」もついています。このような資料を家族と共有することは、いろんなことがありつつ、希望に向かって少しずつ進んでいく回復のイメージをもってもらうことに役立つかもしれません。必要に応じて、面接のなかでご活用ください。

また、巻末付録の最後に「支援者のための参考資料」を掲載しています。このツールをより深く理解したり、さらなるスキルアップを図ったりするためのものですので、ぜひご一読ください。

* 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部のWebサイト

<http://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/reference/index.html>

表1 ツールの使い方

時 期	● 実施すること ☆ 留意すること	該当ページ
初回面接の前	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援者の基本姿勢やスキルを確認する。 ☆ スキルは最初から完全に使いこなそうと考えず、面接の前後に自ら振り返るなどして、少しずつ慣れていく。 	<p>「1. 支援者に求められる基本的態度とスキル」 (pp. 8-15)</p>
初回インタビュー アセスメント面接	<ul style="list-style-type: none"> ● 「インタビュー・アセスメントシート」を活用して面接を行う。 ☆ 緊急対応に関わるような項目については最初の電話で聞き取り、対応の遅れを防ぐ。 	<p>「2. インタビュー・アセスメント」 (pp. 16-18)</p>
緊急対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急対応の必要性を検討し対処する。 ☆ 周囲とよく相談しながら、早急に調整を行う。 	<p>「3. 緊急対応を検討すべき状況と対応方法」 (pp. 19-20)</p>
継続面接	<ul style="list-style-type: none"> ● 「今日の相談シート」を活用して面接を行う。 ● 「家族心理教育プログラム」を活用する。 ☆ 家族とともに「今日の関心事・テーマ」を設定したら、その日の面接の目標を達成するために「家族心理教育プログラム」を活用できそうかどうか検討してみる。 ☆ 「家族心理教育プログラムを活用するためのリスト」の中に、家族の関心事・テーマに合った内容が見つかれば、プログラムの該当箇所も使いながら面接を進める。 	<p>「4. 継続面接」 (pp. 21-23) 「家族心理教育プログラムを活用するためのリスト」 (巻末付録)</p>